

Q. 大震災による火災発生を想定した「消火用の水」の準備状況は？

◇ 全体で約5割が『ミネラルウォーターを買い置き』

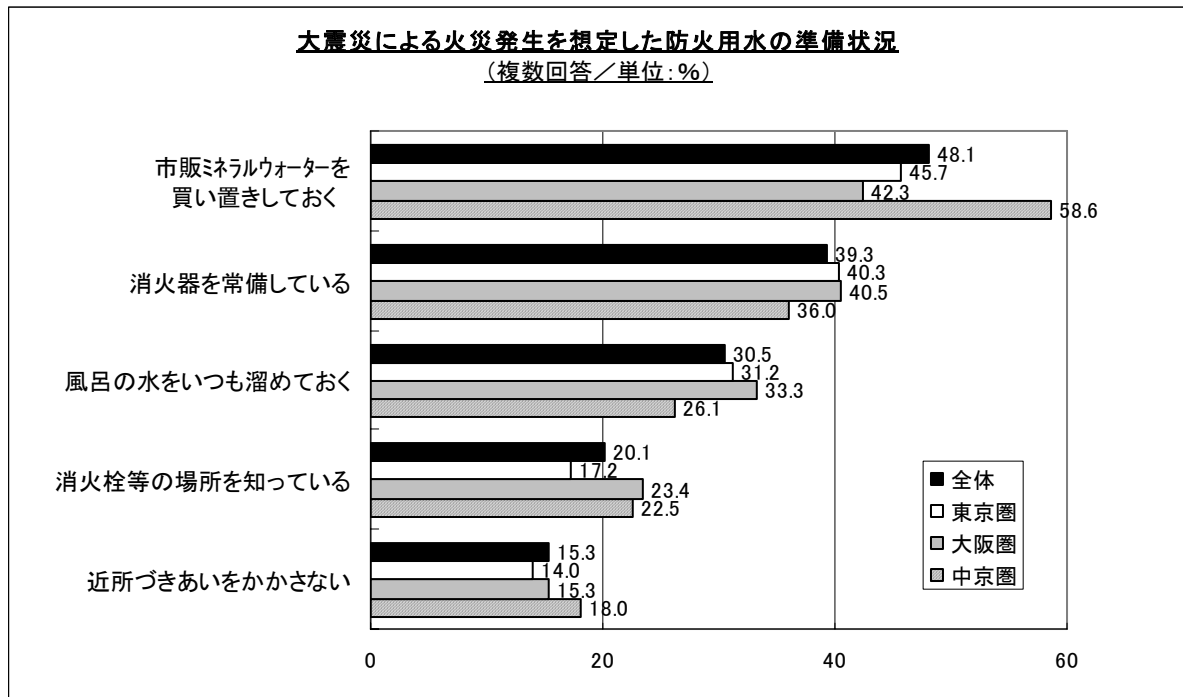
◇ 大震災による火災発生を想定して3割の家庭では『風呂の水をいつも溜めておく』

大地震に伴う火災は、特に住宅が密集している大都市圏では、人的・物的被害をより深刻なものにする可能性があります。地震によって水道が止まってしまったときに発生する火災に対して、大都市圏の生活者はどのような形で「消火用の水」を準備しているのでしょうか？

もっとも実施率が高かったのは『市販のミネラルウォーターを買い置きしておく』で48.1%でした。

『消火器を常備しておく』と『風呂の水をいつも溜めておく』を居住地別で見ると、いずれも東京圏、大阪圏で実施率は全体よりも高くなっているのに対し、中京圏では両方とも実施率が低いという結果が出ました。『消火栓等の場所を知っている』は、全体では20.1%で、5人に1人が知っているというのが現状のようです。

『風呂の水をいつも溜めておく』は、50代以上では半数近い46.8%なのに対して20代は18.5%の実施率で、20ポイント以上の差が見られます。また『消火器を常備しておく』は、50代（50.8%）に対してと20代（35.9%）で14.9ポイントの差が出ました。



大震災による火災発生を想定した「消火用の水」の準備状況（年代別比較抜粋）（単位：%）

	全体	20代	30代	40代	50代以上
風呂の水をいつも溜めておく	30.5	18.5	24.1	28.3	46.8
消火器を常備しておく	39.3	35.9	48.2	54.9	50.8